

文章推敲支援機能におけるMMIについて

6B-8

*井上 亜佐男 **楠元 達治 **中里 茂美 **堤 義直

*東芝ソフトウェアエンジニアリング 株式会社

**株式会社 東芝 情報通信システム技術研究所

1. はじめに

最近の日本語ワードプロセッサは、ハードウェア、およびソフトウェアの急速な発達にともない、多機能化、高機能化へと発展してきている。

このため、ユーザが多機能化、高機能化した機能を、効率的にかつ容易に使用できるマン・マシン・インターフェースの提供が望まれている。

本報告では、ユーザに代わって文章の推敲、校正を行うことを目的として、日本語ワードプロセッサ上に搭載された文章推敲支援機能と、文章推敲支援機能に新たに付け加えられた、推敲新語登録機能、誤り部分の一括表示機能、および印刷機能について述べる。

2. 文章推敲支援の基本機能とMMIの問題点

日本語ワードプロセッサ上に搭載された文章推敲支援機能には、以下の基本機能がある。

① 文体チェック機能

文章中に常体（[である調]）、敬体（[ですます調]）が混在している場合、一方の文体を指定することにより、異なる文体の表現を指摘し、さらに指定した文体に変換する。

② 文法チェック機能

日本語として文法的に正しいかチェックし、曖昧な表現を指摘する。そして、指摘された誤り部分に対して、ガイドメッセージを表示する。

③ 表記チェック機能

送りがな、同義語のチェックを行い、良く使われる送りがなや同義語を推奨する。

④ 未登録語チェック機能

辞書に登録されていない語句を文章中から抽

出して指摘する。さらに指摘された語句を、辞書に登録することによって、これ以降のチェックでは、未登録語として検出されなくなるという効果がある。

これらの基本機能を制御するMMIの問題点として、

- 未登録語チェックにおいて、指摘された語句を辞書に登録する処理に時間がかかってしまう。
- 文章推敲支援機能を行い、文章中で誤りと指摘された部分については、反転、プリンクなどのアトリビュートで表示するが、画面から外れて表示されない部分については、見落される場合がある。
- 作成した文章を、別の人に頼んで文章推敲を行ってもらいたい場合に、結果の保存方法がないため、文章推敲を頼まれた人が、依頼者に結果を伝えることが難しい。

以上のものが、考えられる。

3. 推敲新語登録機能

この機能は、未登録語チェックでの、辞書登録に要する処理時間の短縮のために作成された。

この機能の特徴としては、

- 未登録語チェックにおいて、検出された未登録語を辞書に登録する場合、文章推敲支援機能の内部でこの機能は動作するので、文章推敲支援機能を終了せずに、未登録語を辞書に登録できる。
- 未登録語を辞書へ登録するのに、文章作成中のエディター画面上において、システムと会話しながら行うため、登録作業が簡単に行へ、操作ミスを防ぐこ

Man-Machine Interface in Automatic Text Revision Guidance System

*Asao INOUE **Tatsuji KUSUMOTO **Shigemi NAKASATO **Yoshinao TSUTSUMI

*TOSHIBA SOFTWARE ENGINEERING Corp.

**TOSHIBA Information and Communication Systems Laboratory

とができる。(図1) (図2)

図1 登録のガイドメッセージ

図3 誤り部分の一括表示

図2 実際に登録を行う画面

4. 誤り部分の一括表示機能、および印刷機能

文章推敲支援機能を行い、文章中で誤りと指摘された部分を一括で表示(図3)し、それをプリンターで出力する。誤り部分の一括表示機能により、一画面全ての誤り部分を表示することができ、画面から外れて表示されない部分についても、見落すことがなくなった。

また印刷機能により、一括表示している誤り部分をプリンターで出力できるので、自分で作成した文章を、別の人に推敲を行ってもらい、その結果を元に、作成した文章の手直しを行うことが容易にできるようになった。

5. おわりに

今回、ユーザが効率的にかつ容易に使用できるマン・マシン・インターフェースを提供することを目的として、2つの新しい機能を、文章推敲支援機能に加えたが、よりユーザフレンドリーなものとなるためには、次のような改良点が考えられる。

- 文章推敲支援機能を行い、文章中で誤りと指摘された部分については、文章推敲支援機能を終了せずに、訂正が行えるようにする。
- 現時点では、頁単位で行っている処理を、一文書全てについて行えるようにする。

今後さらに多機能化、高機能化へと発展が予想される日本語ワードプロセッサにおいて、本当にユーザの使いやすいマン・マシン・インターフェースを提供するということは、非常に重要な課題となってくると思われる。

[参考文献]

楠元、中里、大黒、堤：“文章作成支援システムにおけるMMIについて”、昭和62年後期情報処理学会講演論文集「4S-8」